



パパの子育て支援の充実、働きやすく休みやすい環境整備。 ワーク・ライフ・バランスを力強く推進

シナノケンシ 株式会社

- ◆ 製造業
- ◆ 従業員数850名【女性150名・男性700名】
- ◆ 上田市上丸子

組を行い数々の受賞歴があるシナノケンシは、性別に関係なく働きやすく休みやすい環境を整備してきている。

■ 進化した「ノー残業デー」
受賞した当時には無かったこの制度は、今や週に4回というペースで取り入れられている。そのため従業員の理解も得られ、早く帰れる雰囲気がか社の中にできてきたという好意的な意見が多いという。

■ 在宅型モバイル勤務制度
育児休業中、月に10日程度在宅で就業できる制度で、これにより、開発チームに所属し、自宅でのペースで働き、育児と両立することが出来るようになった。

■ 女性雇用者の実態
女性の育児休暇取得

復帰率は2009年から継続して100%。育児をする上で、働きやすく休みやすい環境が整備されている結果だろう。また、女性従業員が少なくない中で、女性役職者も課長1人、係長3人が誕生している。

■ シナノケンシが考える、WLBと生産性向上

人口減少時代へと向かう現在。女性を含めた様々な人が活躍できる働き方に変えていかなければならない。それにはワーク・ライフ・バランス(WLB)の



▲女性の登用、職域拡大を図るシナノケンシ。生き生きと活躍する人事チーム採用担当の小野塚明葉さん

均衡の図れる職場環境の整備が必要だ。従業員のライフを思いやることに目が行きがちだが、それとともに、仕事をやりきり生産性を高めることが大事だ。余暇が生まれリフレッシュし、それを仕事へ生かす。シナノケンシ株式会社はこれから、このようなサイクルをつくる努力をしていく。



寺尾 雄二郎さん

シナノケンシ 株式会社
総務本部 副本部長

父親向け子育て支援講座、イベント等、全国から多様な講師を招き開設している。

■ 製糸業としてはじまり100年を経たモーター産業

シナノケンシ株式会社は、主にモーターをつくる製造業である。従業員は国内で約1000人だが、女性はその約2割。会社の始まりは約100年前にさかのぼり、養蚕が盛んだった当時製糸業として創業した。現在は海外の需要も増え、海外6カ国に工場を設けるなどグローバルの波に対応している。常に、時代の流れに沿って変化している会社である。

■ パパの子育て支援の積極性が受賞

社員に夢子育て支援ホームページの開設や男性の育児参加の促進などにより、平成19年に上田市から表彰

された。制度としては「時間短縮勤務制度」や「時差出勤制度」があり、朝、子どもを保育園へ預けて出勤できる。

■ 仕事と家庭を両立しやすい環境づくり

2005年に長野労働局からファミリーフレンドリー企業として表彰されたのを皮切りに、ワーク・ライフ・バランスを推進する取組があり、中には、山の秘密基地での親子自然体験やパパとケーキを作ったクリスマス会など、趣向を凝らしたイベントもある。

また地域と係る育児サークル「パパ・カレッジ」、父親向け子育て支援講座「ステキなパパになりたい人のための講座」など、とくに男性の育児参加を促進する取組があり、中には、山の秘密基地での親子自然体験やパパとケーキを作ったクリスマス会など、趣向を凝らしたイベントもある。